平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　田原　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学，英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，数学，英語）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，数学，英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

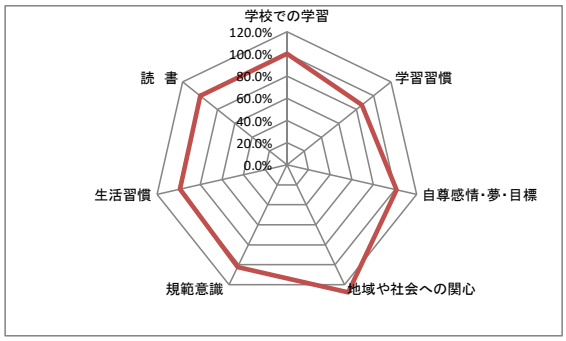
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「読む力」や「話す・聞く力」は全国平均正答率よりやや低く課題が見られたが、「書く力」については全国との差があまりなかった。 ・「関心・意欲・態度」を表す正答率ha他の問題よりも正答率が高く、無回答率も低いことから、国語の学習に対する学習意欲が高いと考えられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ問題については、全国平均正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題等の正答率が低く、文章を読み取る力に課題が見られた。 ・話し合いの話題や方向を捉えたり、相手にわかりやすく伝える表現についての理解に関する問題が全国平均正答率との差が大きかった。	

数学	全体的な傾向や特徴など	・「図形」や「資料の活用」では全国平均正答率より低く課題は見られたが、「関数」ではほぼ全校平均とほぼ同じであった。 ・「数学的な技能」を示す問題での正答率は全国平均との差がなかったが、「数量や図形などについての知識や理解」の記述を含む問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・簡単な連立二次方程式を解く問題やグラフを読み取り解釈する問題は、全国平均正答率より高かった。	
	努力が必要な問題	・証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題などの図形に関する問題の正答率が低かった。 ・与えられた条件や説明を理解し、目的を捉えて説明する等の記述の問題に課題が見られた。	

英語	全体的な傾向や特徴など	・「書くこと」に関する問題の正答率は全国平均との差が大きかったが、「読むこと」に関する問題では、全国平均を大きく上回るものもあった。 ・「話すこと」に関する問題の正答率は全国平均との差があまりなかった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る問題では、全国平均正答率よりかなり高かった。 ・与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題では全国平均正答率とほぼ同じであった。	
	努力が必要な問題	・文の中で適切に接続詞を選択する問題では全国平均との差が大きかった。 ・日常的な話題について、情報を正確に聞きとる問題での正答率が低く、課題が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多く、規範意識も高いので、落ち着いた学校生活が送れている。 ・授業では質問するなどしてわかるまで取り組む姿勢は見られるが、家で計画を立てて学習することができない生徒が多く、家庭での学習習慣に課題が見られる。 ・地域の行事に参加する生徒が多く、地域や社会への関心が高い。 ・読書が好きな生徒は多いが、実際に本を読む時間が全国平均に比べて少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・授業において「めあて」「まとめ」を板書に提示するとともに、「振り返り」の時間を確保し、生徒自らが学習の過程を振り返ることで学習の定着を図る。
・授業にペア学習や班活動などの学習内容に合わせた「話し合い活動」を取り入れることによって、主体的、対話的な深い学びを目標とした授業実践を行う。
・「書く力」をつけるため、授業で自分の考えをまとめ、文章表現をするとともに、行事が終わるごとに感想文を書かせる。
・ICT機器を有効に活用し、知識や技能の活用力を高められるような授業づくりに努める。
・朝自習などを活用し、読書週間を設定し、生徒が本を読む時間の確保する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・本校で取り組んでいる週末課題や自学ノート等内容をドリル的なものだけでなく、課題解決型の学習課題になるように工夫する。
・長期休暇には、自由研究やレポートなどの調べ学習などを課題とし、生徒自らの深い学びにつながるようにする。
・定期考査の取組で作成する計画表やその活用方法を指導することで、生徒自らが計画的な学習が力を伸ばすことを実感させる。
・学校便り等で本校の学力について保護者に発信し、課題を共有することで協力体制を整える。